

(本の力、つづき)



さて、休憩をはさんで、苗村さんが師匠と仰ぐ、佐伯英雄理事長の、ブックトークショー『本の力』の開演です。

『本の力』は、佐伯理事長が読んでこられた本を〔できるだけ内容には触れず〕それでいて〔聴いた人が読んでみたくなるように〕自分の読書体験を中心に、その本の魅力を紹介していく、読書普及協会の設立当初から10数年続いている、全国でも人気のイベントでもあります。

今回、お客さんに若い人が多いという事前情報を聞いた佐伯さんは、それに合わせて〔人間関係〕〔仕事の壁〕〔仕事の中で個性を生かす〕〔転職する前に読んでほしい本〕〔運命を受け入れる〕〔自分の頭で考える〕〔小説の力〕〔本の力〕という8つのテーマで、15冊の本を御紹介頂きました。

「皆さんこんにちは、今日は 栄えあるリニューアルオープンおめでとうございます。こんな記念すべき日に、ゲストで呼んで頂けて本当に嬉しいです。今日は、どうぞよろしくお願ひします」と、気さくに語りかけられる佐伯さん。

まず、最初のテーマ〔人間関係〕について

「20代の頃、佐伯が一番悩んだのがコレです(笑)

すべての悩みは 人間関係の悩みだ、と言われるくらいで、ボクも20代の頃は、仕事での人間関係に、本当に悩みまし」と

- 『嫌われる勇気』（岸見一郎/古賀史健 共著 ダイアモンド社）
- 『潜在意識をとことん使いこなす』（C・ジェームズ・ジェンセン/著 サンマーク出版）の2冊を紹介。

啓発本・ハウツー本を紹介されるときでも、それを読むに至った経緯や、読んでみて

の正直な感想、そして、良くも悪くも、御自身にどんな展開があったか等々。御自身の読書体験、それ自体を、ドラマ仕立てで面白おかしく物語って下さるのが佐伯さんの『本の力』の特徴です。聴いている人と対等目線で 体験をシェアしていく、共感型エンターテインメントという感じで、トークは進行していきます。

「最近、母の介護と家事漬けの生活で 参っていたんですね」と、本の紹介に当たって近況を語られる佐伯さん、

「自尊心の高い状態の人は、ポジティブな言葉の連呼で人生がうまく行くのかもしれませんが、自尊心が低くなってる人には、それじゃあうまく行かない事が、体験的に分かって来ました」と潜在意識の仕組みを、体験的に納得されたエピソードを紹介。「自尊心の低い人は、まず 親・兄弟との人間関係を変える必要があるんですね。ボクは今、母の介護をしながら、家族の問題と向き合ってる最中です(笑)」

こんな感じで 各テーマについて、エピソード満載で語られる読書体験は、佐伯さんの『個人的な体験』なのですが、お客さんたちは、それが面白くて、グイグイ聴き入ってしまいます。

「これさえやれば 人生うまくいく、とかそういう教えを 盲信しちゃう人は、上手くいってない事が多いですね(笑)」

「本当に うまくいってる人は、そんな教えも、いずれは卒業する 1 ステップに過ぎない事が分かっていて、人生経験を重ねて学びを得る事で、成長いかれてますよ」と。

その流れで、次のテーマ〔仕事の壁〕

- 『仕事は楽しいかね?』
- 『限界はあなたの頭の中にしかない』の2冊を紹介。

「試してみる事に無駄はないんですね。いろんな事を試してみるから、気づきも成長もあるんだ、と思ってます。ボクは 若い頃から恥ずかしい失敗をいっぱい重ねてきましたけど(笑)、それは全然ムダになってないですよ」

と、温かく、自分のサラリーマン時代の数々の失敗談を語って下さる佐伯さん。

理不尽な辞令、そして 逃げられなかった 上司との関係・・・

「抵抗しまくりでしたが(笑)、受け入れるしかなかったですね～(苦笑)、つらかったけど、でも、ボクには本がありましたから」

この日一番私の心に残ったエピソードは、まさに〔運命を受け入れる〕というテーマで紹介された

- 『本屋さんのダイアナ』（柚木麻子/著 新潮社/刊）

親友になった2人の少女は、全く違う境遇 そして性格。  
出会いからうまく行きだした主人公の人生に、ある日、思わぬ悲劇が・・・  
「本なんか読んでも 人生変わらないよ、という人はいます。  
この本の主人公もそうですが、確かに、本を読んでも、現実には現実で変わらないでしょう。ボクも今、母の介護でそれを痛感してます。」と 淡々と語られる佐伯さん。

「でも、その現実を受け入れる事、そして、その現実を乗り越えて行こうと思える心は、ボクの場合、まぎれもなく、本を読んで養われたものなんですよ。  
本には、心を豊かにする力があります。出来れば 皆さんに 小説を読んでほしいなあ、って思ってます。どんな登場人物の人生も、うまくいく時もいかない時も、どうか一緒にあって、その気持ちを、じっくり味わってあげてほしいですね」と。

「本を読んだ瞬間には 何も起こらないかもしれない。  
でも、幸せを感じる心が、人生にいっぱい幸せを運んでくるんじゃないか、って。  
そして、そういうものを養えるのが 読書なんだなあ、ってボクは、思っています」  
と 皆さんにあたたかい眼差しを向けて、締められた佐伯理事長。  
大きな拍手で『本の力』は 終了しました

佐伯理事長、 滋賀支部『本の森』の苗村さん、ありがとうございました。

「本の力」は 現在、東京を中心に 不定期で 開催されています。  
御興味を抱かれた方は、  
読書普及協会ホームページの [イベント案内] のページを御覧ください。  
[http://yomou.com/?post\\_type=tribe\\_events](http://yomou.com/?post_type=tribe_events)

また 滋賀支部「本の森」さんでは 月に一回 日曜日に 交流イベントを予定されています。  
御興味のある方は 下記ホームページから アクセスしてみてください。  
● 駄菓子屋系古本屋 『本の森』  
<http://honnomori.on.omisenomikata.jp/>

(文責：京都支部長 井尻聡一)